

報 告

第 23 回日本障害者スポーツ学会参加報告

川村義肢株式会社 井上 友希

1. はじめに

トップアスリートを支える様々な技術は、広く一般にも応用されており健全・障害の有無には関係ありません。例えばサポーター等は、高齢者から部活動まで技術の応用や廉価版などを用いられ広く普及しています。競技を技術や道具の面で支えることは、末広がりにより多くの人の困った、の声に応える事ができると感じています。

2. 障害者スポーツの現状

障害は個人差が大きいため競技人口が健全者スポーツに比べ多くありません。一つの競技の中でもチームごとに選手の取り合いも起こっていると知り、競技人口の拡大や選手の強化は極めて難しいと思います。より多くのスポーツを行う人口を増やすには入り口を広くすることが第一で、強い選手を生み出すには競技人口が増えることが重要ですが、入り口の狭さや公平さを保つためのルール制限も多く道のりは長いと感じました。

3. 学会の内容

学会は 2014 年 3 月 30 日(日) に聖マリア病院大学ホールにて開催されました(写真 1)。

発表の多くに、競技中での身体機能の評価法や動作分析があり測定方法や機器の話がとても興



写真1 マリア様と展示準備

味深かったです。中でも、陸上競技はトップアスリート本人が学会に参加しており、当時の大会の様子や機器開発についての苦労話等実際に経験している人にしかわからない裏話が聞けました。医師やセラピスト・トレーナーからの発表が多く、アスリートや当事者の参加は多くありませんでした。

特別講演では、大会長が関わった義足の住職より体験談も交え貴重なお話が聞けました。

義足になってから陸上を始め、今のほうが運動もしているので健康になったなど前向きな話が多かったです。中でも、義足を履いたまま海へ行き水へ入った話に驚きました。様々な危険が考えられますがご本人は楽しそうに、義足は付けたまま水に入ると最初はパイプ部に空気が入っているので浮かび、その後水が入って沈んだと話していました。事故で切断したのち、奥様が義肢装具士になられて支えられていることも印象的でした(写真 2)。



写真2 特別講演「義足と生きる」

4. 物づくり人からみて

ブラインドサッカーのヘッドギアの話を知ったとき、激しく頭部がぶつかり脳震盪が起きるなどの怪我が起こりにくくするため新たに何か作りたいと発表があったが、現状の保護帽などをうまく活用し一般の障害がある方にも使えるようなものができたらより良いのではと考えました。現状のヘッドギアの形状やスポーツの現場に立会い、何かヒントを見つけたいと考えています。

次回の第 24 回日本障害者スポーツ学会は 2014 年 12 月 6 日(土)、7 日(日)につくば国際会議場で開催です。

川村義肢株式会社

〒 136-0073 東京都江東区北砂 1-19-9